

日出町の主な出来事

- 昭和29(1954)年
日出・豊岡・大神・藤原・川崎の5ヶ町村が合併して日出町となる
- 昭和31(1956)年
南端村を分離吸収合併して豊岡平道の一部を別府市に分離、現在の日出町となる
- 昭和35(1960)年
まちの通信の核となる有線放送電話開始(昭和50(1975)年廃止)
- 豊岡漁港埋立工事完成
- 昭和39(1964)年
大分県新産業都市開発地域に指定される
- 小田城浄水場建設、上水道事業(公営企業)開始
- 昭和41(1966)年
日出港埋立工事完成、日出工業団地造成
- 第21回国民体育大会開催(卓球会場を担当)
- 昭和42(1967)年
学校給食共同調理場完成、町内全小中学校で完全給食開始
- 昭和45(1970)年
役場庁舎新築工事完成
- 昭和48(1973)年
豊岡住宅団地第1期造成工事完成
- 日本テキサス・インスツルメンツ(株)日出工場操業開始
- 別杵速見地域広域市町村圏事務組合発足

- 昭和49(1974)年
杵築速見環境浄化組合発足
- 杵築速見消防組合発足、翌年日出出張所(現日出消防署)業務開始
- 昭和50(1975)年
県北・国東地域テクノポリス圏に指定される
- 昭和51(1976)年
黒岩公園完成
- 日出町中央公民館完成
- 昭和54(1979)年
町営体育館完成
- 日出住宅団地第1期造成工事完成
- 昭和57(1982)年
町旗の制定
- 昭和61(1986)年
第1回城下かれい祭り開催
- 浄化センター完成、公共下水道供用開始
- 第3セクター(株)日出ハイテック設立
- 昭和62(1987)年
大神・日出・豊後豊岡に次ぐ町内4番目の「JR陽谷駅」開業
- 昭和63(1988)年
社会福祉法人太陽の家「サンコミュニティ大神」開所、障がい者多数雇用型企業「ソーニャ太陽(株)日出工場」操業開始



▲昭和50(1975)年ごろ 国道10号の風景
日出町の東西を横切る国道10号は、当時から交通の要所として重要な役割を果たし、まちの発展を支えてきました。



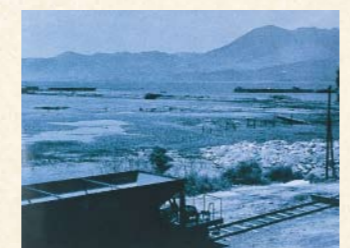
▲昭和62(1987)年 JR陽谷駅開業



▲昭和56(1981)年ごろ 糸ヶ浜海水浴場



▲昭和41(1966)年 第21回国民体育大会開催



▲昭和40(1965)年ごろ 日出港のようす

昭和の日出町が残した軌跡を辿る

現在の日出町が形づくられた昭和30年代以降、「住みよいまち」の土台づくりとして社会基盤整備を行いました。

その中で、住宅団地や工業団地の造成、社会教育・体育施設の建設、道路・交通網の整備など、積極的に定住促進や企業誘致への取り組みを行い、現在のまちの礎がつけられました。

きらめきLIFE×歴史・文化

日出町の歴史を巡る 輝かしき軌跡。 昭和29年~63年

まちが歩んできた歴史に思いを馳せながら、日出で暮らしていた人の輝く軌跡を見つめる。

After the mid-fifties, Hiji Town encouraged prominent companies to settle in the community by developing housing and industrial estates or maintaining a transit network, all forming the basis of a comfortable town to live in.

~あしあと~



日出町の主な出来事

- 平成元(1989)年
 - 「大分厚生年金休暇センター」オープン
 - 大分自動車道(別府〜湯布院間)開通
- 平成2(1990)年
 - 「別府湾ロイヤルホテル」オープン
- 平成3(1991)年
 - 糸ヶ浜海浜公園供用開始
 - 「ハーモニーランド」オープン
- 大分空港道路開通
- 平成5(1993)年
 - 宇佐別府道路(速見〜院内間)開通
- 平成6(1994)年
 - 速見地区広域農道開通
 - 漁業集落排水処理施設(大神地区)完成
 - 役場庁舎増築工事完成
 - 宇佐別府道路と大分自動車道をつなぐ日出JCT開通
- 平成7(1995)年
 - 障がい者多数雇用型企業「ホンダ太陽(株)日出工場」、「ホンダR&D太陽(株)日出工場」操業開始
- 平成9(1997)年
 - 農業集落排水処理施設(大神原山地区)完成
 - 日出高校が「日出暘谷高校」に校名変更し、大神地区に新築移転
- 平成12(2000)年
 - 城下かれい中間育成施設完成
- 平成13(2001)年
 - 保健福祉センター完成
- 平成14(2002)年
 - 日出バイパス全面開通
- 高速・高規格道路網完成
- 平成16(2004)年
 - 日出土地区画整理事業完了
- 平成18(2006)年
 - 第1回ザビエルの道ウォーキング大会開催
- 平成19(2007)年
 - (故)二階堂暹氏を日出町名誉町民第1号に選定
 - 立命館アジア太平洋大学と友好交流協定を締結
- 平成20(2008)年
 - 大分大学と相互協定を締結
 - 第63回国民体育大会開催(なぎなた、ビリヤード会場を担当)
- 平成21(2009)年
 - 町指定文化財「的山荘」を町有化
- 平成22(2010)年
 - 「ホテルソラーージュ大分・日出」オープン
 - まちの観光交流拠点「二の丸館」完成
 - 別府大学と相互協力協定を締結
 - 省エネ・環境対策として、役場庁舎・小田城浄水場に太陽光パネルを設置
- 平成23(2011)年
 - 総合型地域スポーツクラブ「ひまわりのたね」設立
 - 「シルバー人材センター」設立
- 九州地方整備局と大規模災害時の応援に関する協定を締結
- 平成24(2012)年
 - 「亀の井ホテル大分日出店」オープン

輝かしく軌跡。～あしあと～ 平成元年～24年



▲平成元(1989)年 大分自動車道(別府～湯布院間)開通
約7年の歳月をかけて完成した道路。別府から湯布院まで約20分で移動が可能となった。7月20日には、別府湾サービスエリアで開通祝賀式が行われ、野田建設大臣、宮繁日本道路公団総裁、平松知事らが出席した。

昭和から平成へ 受け継ぐまちづくり整備

昭和から平成に時代が移り変わり、元来有する恵まれた自然環境と新たに着手した日出土地区画整理事業をはじめとする環境整備等により、まちの人口はさらに増加しました。

また、高速・高規格道路の開通、企業や観光・宿泊施設の立地などまちを取り巻く環境も変化し、日出町は新しい姿を見せるようになりました。

さらなる発展をめざした取り組み

平成16(2004)年、日出町は合併せず独自でまちづくりを行うことを選択しました。

現在、JRR暘谷駅付近にはホテルや大型店舗が立地し、日出城址周辺には観光交流拠点として「二の丸館」を開設するなど、中心市街地の活性化に取り組んでいます。

また、県内の大学との友好協定の締結やウォーキング大会の開催など町内だけでなく町外の人たちへまちの魅力を発信し、交流人口を増やす取り組みも行っています。

このほか、生活環境の整備、産業の振興などさらなる発展をめざした取り組みを進めています。

As time passed from Showa to Heisei, the town's population grew. A new highway opened, the town welcomed new industry, and tourism thrived. Today, we are creating a dynamic central urban district by increasing the commuter population and locating attractions at the other cities and towns to create additional development.



▲平成13(2001)年 保健福祉センター完成



▲平成12(2000)年 城下かれい中間育成施設完成



▲平成6(1994)年 役場庁舎増築工事完成



▲平成3(1991)年 「ハーモニーランド」オープン



▲平成20(2008)年 第63回国民体育大会開催



▲平成19(2007)年 立命館アジア太平洋大学と友好交流協定を締結

▼平成22(2010)年 「二の丸館」完成

まちの観光拠点として、日出城址周辺に設立。観光案内所をはじめ、特産品販売コーナーや軽食喫茶、展示コーナーなどがあり、子どもから大人まで幅広い年代の人たちが利用できるふれあいの場となっている。

